

ページ 2

Basic Information / 基本情報

Duration / 開催期間

説明：～年～月 から ～年～月まで

2013年11月17日

Staff / スタッフ

説明：青年会議所メンバーの参加人数

例：何人 ○○member

36MEMBERS

Sponsors / 支援者

説明：青年会議所以外のメンバーがいる場合のみ記載してください

例：○○市ボランティア団体等

名古屋市、日本赤十字社、警察、消防、格闘家

Budget 予算

説明：ドルで表示してください。

例：1万円なら one hundred dollar

US\$15,000

Profit / Loss 利益／損失

説明：基金を集めること以外は、0にしてください

0

In Which UN MDG best fit (if Apply)? UN MDGs の該当項目（もしあれば）

説明：

Who is benefited? 誰の為に？

説明：活動エリアに住み暮らす人々 人

名古屋市及びその周辺の小学校に通う小学生（6～12歳）並びに名古屋市に住み暮らす

人々220万人

Objective 目的

説明：(例1) 子ども対象の事業をベースにして、参加者とメンバーの意識を変革を促し、前向きな変化を創り出すため

将来を担う子供たちに、職業には自分たちの生活を維持する側面だけでなく、職業を通じて社会貢献を行っていることを知ってもらい、子供たちが将来、職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行うことができるよう POSITIVE CHANGE するため。

①職業には収入を得て、自分たちの生活を維持する側面がある一方、職業を通じて社会貢献を行うという重要な側面があることを忘れてはならない。これは、市民が職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行っていることを意味する。

②しかし、政府の調査によれば、仕事をする意味について次世代の市民が「多くの人の役に立つ」と回答したのは5%にすぎない。

③したがって、次世代の市民がどの職業がどのように SERVICE TO HUMANITY を行っているのか知ることは重要である。

④次世代の市民がどの職業がどのように SERVICE TO HUMANITY を行っているのか知るためには、実際に職業を体験することが重要である。民間のおもちゃメーカーによるアンケート調査によれば、多くの子供たちが「実際に働いている人を見て将来なりたい職業を選ぶ」と回答しているからである。

⑤しかし、日本の学校教育は学力向上に主眼があり、次世代の市民に職業体験の機会を提供できていない

⑥子供たちに職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行うことの重要性を感じてもらおう積極的な機会を提供する必要がある

Overview 概要

説明：必ず結果と合致しているはず

JCI名古屋は、少なくとも4400名以上の小学生(6~12歳)及びその親に対し、弁護士、歯医者、看護師、薬局、警察官、救急隊員、建築家、家具屋、重機乗車、フラワーデザイン、ネイリスト、音楽、格闘技、八百屋を体験する機会を与えた

Result 結果

説明：複数の短い文章になるように注意してください

目的がどのくらい達成できたか書いてください

上記の結果の想定外の結果を書いてください

上記の結果の確認方法を書いてください

検証結果を簡潔に書いてください

<結果>

参加した次世代の市民は、職業体験を通じてどの職業がどのように SERVICE TO HUMANITY を行っているか学び、将来、職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行うために POSITIVE CHANGE した。

<結果の根拠>

・参加した小学生のアンケート結果

職業に社会奉仕の側面があることを体験した小学生の 64%が「将来やりたい仕事が見つかった」と回答した。

職業に社会奉仕の側面があることを体験した小学生の 67%が「はたらくために勉強しようと思った」と回答した。

・職業体験ブースからのヒアリング

「参加した小学生は興味を持って職業体験を行っていた。楽しそうな様子だった。」(重機体験ブース)

「参加した小学生は1時間30分の長い時間にもかかわらず、熱心に家の設計図を作ってくれた。将来、建築家になりたいと言った小学生もいた。材料を持って帰って家でやりたいと言った小学生もいた。」(建築家ブース)

Actions Taken 行動

説明：

2013年

8月 事業企画

8月～10月 JCI名古屋メンバーが名古屋市、警察、格闘家に協力要請

JCI名古屋メンバーがブース作りのため各職業の事前調査

10月 JCI名古屋メンバーが名古屋市内の小学校へチラシ配布

11月 事業実施

12月 JCI名古屋メンバーが協力先へ訪問し、御礼と事後検証

受付

趣旨説明

各ブースで職業体験実施

①弁護士ブース

模擬裁判を行い、小学生に人が人を裁く仕事の社会での役割を理解してもらう

②歯医者ブース

小学生に歯科医の疑似体験をしてもらい、患者を助けるという歯科医の社会での役割を理解してもらう

③看護師ブース

小学生に看護師の疑似体験をもらい、怪我をした人や介護を必要とする人へ奉仕するという看護師の社会での役割を理解してもらう

④薬局ブース

小学生に薬剤師の疑似体験をもらい、薬剤師の役割、患者を助ける仕事の価値を学んでもらう

⑤警察官ブース

愛知県警察の協力の下、小学生に警察官による防犯業務や地域災害救出の体験をもらい、地域の平穏を守るという警察官の社会での役割を理解してもらう

⑥救急隊員ブース

・消防士ブース

名古屋市消防局の協力の下、小学生にレスキュー体験や消防車に触れる体験をもらい、まちを守るという消防士の社会での役割を理解してもらう

・救急救命士ブース

小学生に救急救命の疑似体験をもらい、救急医療現場で人の生命を守るという救急救命士の社会での役割を理解してもらう

⑦建築家ブース

小学生に建築設計を体験してもらい、生活とまちをデザインするという建築家の社会での役割を理解してもらう

⑧家具屋ブース

小学生に棚を作ってもらい、人の生活を豊かにするという家具屋の社会での役割を理解してもらう

⑨重機体験ブース

小学生に工事現場で使われている重機に乗車してもらい、まちを作るという社会での役割を理解してもらう

⑩フラワーデザインブース

小学生にフラワーアレンジメントを体験してもらい、人の心を豊かにするというフラワーアレンジメントの社会での役割を理解してもらう

⑪ネイリストブース

小学生にネイル体験をもらい、人に感動を与えるというネイリストの社会での役割を理解してもらう

⑫音楽ブース

- ・小学生にボイストレーニングを体験してもらい、人に感動を与えるという歌手やアイドルの社会での役割を理解してもらう
- ・日本一の三味線演奏者の協力の下、小学生に三味線（日本の楽器）演奏を体験してもらい、音楽で人に感動してもらう仕事の社会での役割を理解してもらう

⑬格闘技ブース

小学生にプロの格闘家から総合格闘技の指導を受けてもらい、体力、精神力を鍛えて夢を持つことが人に感動を与えることができるという格闘家の社会での役割を理解してもらう

⑭八百屋体験ブース

小学生に仮想通貨を使って商品の流通やお金の流れを体験してもらい、八百屋の価値を学んでもらう

Recommendations 考察や推奨

目的のうちどの部分が達成されたのか？

達成できなかった部分は、何か？

それは、なぜか？その改善策は？

<目的を達成できた点>

- ・小学生に少なくとも1つの職業を体験してもらい、どの職業がどのように SERVICE TO HUMANITY を行っているのか学んでもらった
- ・小学生に職業を通して SERVICE TO HUMANITY を行うことの重要性を学んでもらった
- ・小学生の64%が「将来やりたい仕事が見つかった」と回答した

<一番のポイント>

- ・職業に「多くの人役に立つ」という側面があることを5%しか理解していなかった次世代の市民が、職業体験をして、職業を通じて社会貢献を行うという重要な側面があることを理解できた。
- ・その結果、次世代の市民は、将来職業を選ぶ際、その職業がどのように SERVICE TO HUMANITY を行っているのかを行動基準として職業を選ぶよう POSITIVE CHANGE できた。

<改善策>

- ・職業毎に制限時間を設けて多くの小学生が体験できるようにする
- ・協力企業を増やし職業体験ブースを増やす

ページ3

部門 Best Local CSR Project

Objectives, Planning, Finance and Execution 目的、計画、財務、実施

What were the objectives of this program?

このプログラムの目的は？

将来を担う子供たちに、職業には自分たちの生活を維持する側面だけでなく、職業を通じて社会貢献を行っていることを知ってもらい、子供たちが将来、職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行うことができるよう POSITIVE CHANGE するため。

How does this program align to the JCI Plan of Action?

この事業は、どのように JCI の活動計画と合っていますか？

本事業を通じて少なくとも 4400 名以上の小学生及びその親に対して JCI 名古屋が何をやっているのか、どのように行動しているのかを示した点が JCI の活動計画と合っている

Was the budget an effective guide for the financial management of the project?

予算計画は事業の財務管理の為に効果的なガイドになりましたか？

- ・次世代の市民ができるだけ多くの職業を体験できる機会を提供する点を重視した。
- ・協力企業、組織が CSR 活動の重要性を理解し、職業体験ブースにボランティア参加したことで、予算計画内で事業を実施することができた。

How does this project advance the JCI Mission and Vision?

どうやってこの事業は JCI のミッションとヴィジョンを推進しましたか？

JCI ミッションの推進

JCI 名古屋は、本事業によって次世代の市民が職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行うことの重要性を学び、成長する機会を提供する

JCI ヴィジョンの推進

JCI 名古屋は、本事業によって次世代の市民に職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行うことの重要性を示す。その結果、職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行うことの重要性を学んだ ACTIVE CITIZENS となった次世代の市民が他の次世代の市民へ職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行うことの重要性を伝えるネットワークを生む

※画像4つ必要

ページ4

Community Impact 地域社会への影響

How did the Local Organization measure community impact for this project?

どのようにして、LOM は、このプロジェクトによる地域社会への影響を測りましたか？

- ・ JCI 名古屋は、本事業に参加した小学生（6～12 歳）にアンケート調査を行って、職業が社会貢献に通じることを理解したかを測った。
- ・ JCI 名古屋は、本事業に参加した小学生（6～12 歳）にアンケート調査を行って、職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行うことの重要性を学んだことを測った。

Describe the actual community impact produced by this project

このプロジェクトによって発生した実際の地域社会への影響を記述してください

- ①本事業に参加した次世代の市民は、少なくとも1つ以上の職業を体験した
- ②本事業に参加した世代の市民は、実際に職業体験することで職業が社会貢献に通じていることを理解した。
- ③本事業に参加した世代の市民は、職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行うことの重要性を学び、他の市民に職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行うことの重要性を伝えるネットワークを生んだ。

<①の根拠>

- ・アンケート結果

本事業に参加した小学生の100%が「1以上の職業を体験した」と回答した。

<②③の根拠>

- ・アンケート結果

職業に社会奉仕の側面があることを体験した小学生の66%が「大人になって今回体験した仕事をやりたいと思った」と回答した。

職業に社会奉仕の側面があることを体験した小学生の67%が「はたらくために勉強しようと思った」と回答した。

職業に社会奉仕の側面があることを体験した小学生の83%が「仕事は楽しいものだと思った」と回答した。

職業に社会奉仕の側面があることを体験した小学生の64%が「将来やりたい仕事が見つかった」と回答した。

- ・職業体験ブースからのヒアリング

「参加した小学生は興味を持って職業体験を行っていた。楽しそうな様子だった。」(重機体験ブース)

「参加した小学生は1時間30分の長い時間にもかかわらず、熱心に家の設計図を作ってくれた。将来、建築家になりたいと言った小学生もいた。材料を持って帰って家でやりたいと言った小学生もいた。」(建築家ブース)

※画像4つ必要

Alignment to One or More of the Ten Principles through Concrete Measures

10 プリンシプルの一つ以上への具体的な取り組み

Which of the ten principles of CSR did this project target?

CSR の 10 の原則のうち 何をこのプロジェクト目標にしましたか？

本事業は、CSR の 10 の原則のうち、次の 2 つを目標とした。

①CSR の原則 1「企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重すべきである」

- ・ 職業体験を実施した協力企業は、職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行うことの重要性を次世代の市民に伝える。
- ・ SERVICE TO HUMANITY は、持続的に発展可能な社会への奉仕であり、それは他者の人権が保護される社会への奉仕である。
- ・ したがって、職業体験を実施した協力企業は人権の保護を支持、尊重する。

②CSR の原則 2「企業は、自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである」

- ・ 職業体験を実施した協力企業は、職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行うことの重要性を再認識することで、積極的に人権侵害に加担しないよう確保する。

How did this project contribute to the promotion or implementation of the ten principles of CSR?

どのように、このプロジェクトは、CSR の 10 の原則の実現または促進に関与しましたか？

- ・ 本事業には、JCI 名古屋メンバーが所属する 10 の企業が協力した。
- ・ JCI 名古屋は、協力企業に対し、小学生に職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行うことを伝えてもらった。
- ・ 協力企業は、小学生に職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行うことを伝える過程で、自ら職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行うことの重要性を再認識した。
- ・ 職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行うことの重要性を再認識した協力企業は、人権の保護、支持とともに人権侵害に加担しないことを理解し、企業価値を高めた。

※画像4つ必要

Results Achieved 結果

Which objectives did this program achieve?

この事業は、どの目的を達成しましたか？

- ・小学生に少なくとも1つの職業を体験してもらい、どの職業がどのように SERVICE TO HUMANITY を行っているのか学んでもらった
- ・小学生に職業を通して SERVICE TO HUMANITY を行うことの重要性を学んでもらった
- ・小学生の64%が「将来やりたい仕事が見つかった」と回答した

What were the concrete results of the project?

具体的な結果は、何でしたか？

<結果>

参加した次世代の市民は、職業体験を通じてどの職業がどのように SERVICE TO HUMANITY を行っているか学び、将来、職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行うために POSITIVE CHANGE した。

<結果の根拠>

- ・参加した小学生のアンケート結果

職業に社会奉仕の側面があることを体験した小学生の64%が「将来やりたい仕事が見つかった」と回答した。

職業に社会奉仕の側面があることを体験した小学生の67%が「はたらくために勉強しようと思った」と回答した。

- ・職業体験ブースからのヒアリング

「参加した小学生は興味を持って職業体験を行っていた。楽しそうな様子だった。」(重機体験ブース)

「参加した小学生は1時間30分の長い時間にもかかわらず、熱心に家の設計図を作ってくれた。将来、建築家になりたいと言った小学生もいた。材料を持って帰って家でやりたいと言った小学生もいた。」(建築家ブース)

※画像4つ必要

ページ7

Impact on Local Organization LOM への影響

How did the Local Organization benefit from running this project?

どのように、LOM は、このプロジェクトを運営することから利益を得ましたか？

①行政からの LOM の評価向上

外部協力者である名古屋市の担当者は「是非名古屋市でも職業体験を進めていきたい」と述べた。

②市民からの評価向上

JCI 名古屋は、本事業により、4400 人以上の市民に対し、職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行っていることの重要性を示し、JCI 名古屋の認知を広めた。

③協力企業の CSR 活動へのコミットメント

10 の協力企業、組織が職業体験ブースにボランティア参加し、JCI 名古屋の CSR 活動へ積極的にコミットした。今後も、協力企業、組織への協力が期待できる。

How did the program advance the JCI Mission?

どのように、プログラムを通じて JCI ミッションを促進したのか？

・JCI 名古屋は、本事業に参加した小学生に少なくとも 1 つ以上の職業を体験する機会を提供した。

・参加した小学生は、実際に職業を体験したことで、職業に社会貢献の側面があることを理解した。

・JCI 名古屋は、本事業によって次世代の市民が職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行うことの重要性を学び、成長する機会を提供した。

※画像4つ必要

Long-term Impact of the Program プログラムの長期的な影響

What is the expected long-term impact of this project?

このプロジェクトの期待される長期の影響は、何ですか？

- ・本事業に参加した次世代の市民が、SERVICE TO HUMANITY を意識して職業を選ぶことで、職業観により良い変化を与えること。
- ・本事業に参加した次世代の市民が、職業を通じて SERVICE TO HUMANITY を行うことの重要性を他の市民へ伝えるネットワークを広げ、持続的に発展する安定した社会を築くこと。
- ・企業が、職業体験を通じて SERVICE TO HUMANITY を行っていることを再認識することで、CSR 活動の重要性を理解し、企業が人権の保護、支持を永続的に行うこと。
- ・企業が、職業体験を通じて SERVICE TO HUMANITY を行っていることを再認識することで、CSR 活動の重要性を理解し、企業が人権侵害に加担しないことを永続的に確保すること。

What changes would you make to improve the results of this project?

このプロジェクトの結果を改善するために、どんな改善策がありますか？

- ・職業毎に制限時間を設けて多くの小学生が体験できるようにする。
- ・協力企業を増やし職業体験ブースを増やす。

※画像4つ必要